

2016年8月

インド・コットン スタディツアーのご案内

認定 NPO 法人 ACE

日頃 ACE へのご支援ご協力をいただきまして大変ありがとうございます。

衣服やタオル、ベッド用品など身近に使われる綿製品の原料コットン。コットン生産量が世界第1位のインドは、コットンの栽培だけでなく、紡績・縫製などによる綿製品の生産・製造が盛んに行われている国です。日本もインドから多くの綿糸・綿製品を輸入しています。

そのコットン栽培には、農薬の影響による環境汚染や生産者の健康被害や貧困、遺伝子組み換えによる種子産業の独占など様々な問題が起きています。多くの子どもが義務教育を受けられず過酷な環境下で働かされていることも世界的に問題視されています。インドのハイブリッド・コットンの種子栽培に従事する児童労働者の数は、2012年の38万人から2014～15年には48万人以上へと10万人増加していることが分かりました（オランダ・インド委員会 "Cotton's Forgotten Children", 2015年7月）。

ACEは、2007～09年現地での実態調査を行い、2010年からインドのコットン栽培地において、児童労働をなくし子どもの教育と住民の自立を支援する「ピース・インド」プロジェクトを実施しています。さらにインドの同プロジェクト対象地域において、日本企業のご協力により、農民のオーガニックコットン栽培導入や住民の収入向上等を支援する協働プロジェクトを開始し、児童労働のないコットン商品作りも進めています。

この度、コットン栽培地での児童労働の現状や取り組み、コットン製品の生産現場を視察しながら児童労働のない、人権や環境に配慮したエシカル（倫理的な）ビジネスや消費について考えることを目的として「インド・コットン スタディツアー」を企画しました。

ぜひご参加をご検討いただきますよう、お願い申し上げます。

1. 目的

- 1) インドのコットン生産における問題、児童労働問題の現状や改善策について理解を深める。
- 2) 児童労働のない村づくりのためのコミュニティ支援や農家へのオーガニックコットン支援、児童労働のないエシカルな製品への取り組みについて理解を深め、企業・組織や消費者として課題解決の方法を考える。

2. 実施期間：2016年10月18日(火)～24日(月) 5泊7日

3. 訪問先：インド南部（詳細は次頁の日程案をご覧ください）

- 1) テランガナ州マハブナガル県マルダカル地区（ACEのプロジェクト実施地域）
- 2) 他地域のオーガニックコットン企業、紡績・縫製工場、フェアトレード店等 ※予定

4. 対象者：コットンやアパレル関連企業・組織に所属されている方、企業のCSR・エシカルビジネス分野のご担当者、ACEの現地での取り組みや企業とNPOとの協働などに関心のある方

5. 参加人数：10～14名

6. 旅行代金：320,000円（詳細はツアー概要書をご覧ください。）

7. お申込み・問合せ方法：添付の参加申込書にご記入いただき、株式会社マイチケットまでお申込みください。担当：岩井 / E-Mail：info@myticket.jp

8. **申し込み締切：2016年8月5日(金)** ※参加を希望される方は、参加の確定ができない場合もこの日までに検討中の旨をACEへお知らせください。 **最終申し込み締切：9月5日(月)**

- ・資料1 日程案
- ・資料2 ツアー概要書
- ・資料3(別添) インドのコットン生産地における児童労働撤廃に向けた「ピース・インド プロジェクト」
- ・(別添) ツアー参加申込書

インド・コットン スタディツアー日程案

	活動内容	移動	食事	宿泊
1 日目 10/18	11:10 (SQ637)成田空港出発 ⇒17:20 シンガポール着 20:00 (MI474)シンガポール発 ⇒22:05 ハイデラバード着 23:00 ホテルへ移動 23:30 ホテル着、チェックイン、宿泊	飛行機 車	— 機内 機内	ハイデラバード
2 日目 10/19	11:00 ホテルチェックアウト 12:00 ハイデラバード市内で昼食とブリーフィング 14:00 ハイデラバードからカルヌール県のホテルへ移動(車で 5 時間) 19:00 ホテル到着、チェックイン、夕食、宿泊	車 ↓ ↓ ↓	ホテル 外 外	カルヌール
3 日目 10/20	08:00 ホテルからマハブナガル県 マッデラバンダ村へ移動(車で 2 時間) 10:00 マッデラバンダ村訪問:ACE「ピース・インド」プロジェクトについて ・村のリーダー、住民グループから話を聞く ・子どもグループから活動や学校について話を聞く ・ブリッジスクール訪問、子どもから話を聞く 13:00 村で昼食 14:00 職業訓練センターを訪問し、女の子から話を聞く ・プロジェクト支援を受けた子どもの家庭訪問 ・収入向上支援を受けた親から話を聞く ・畑訪問、働く子どもの話を聞く ・スタッフからプロジェクトについて話を聞く 18:00 村を出発、ホテルへ移動(車で 2 時間) 20:00 ホテル到着、チェックイン、夕食、宿泊	車 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓	ホテル 村 外	カルヌール
4 日目 10/21	08:00 ホテルチェックアウト、マハブナガル県へ移動(車で 2 時間) 10:00 ナガルドーディ村訪問: ①児童労働がなくなった村について ・住民グループ、子どもグループから活動について話を聞く ・仕立て屋の女性/収入向上に取り組む親の家庭訪問 ②日本企業による Peace-India Cotton Project について ・コットン農家と農業指導員から話を聞く 13:00 村で昼食 ・コットン畑の訪問、栽培状況の確認 ・ジニング工場を訪問 ・ガドワルの農薬・種ショップの訪問 16:00 村を出発、ハイデラバードへ移動(車で 4 時間) 20:00 ホテル到着チェックイン、夕食、宿泊	車 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓	ホテル 村 外	ハイデラバード
5 日目 10/22	早朝 ホテルチェックアウト、ハイデラバード空港へ移動(車で 30 分) ハイデラバード空港着 (インディゴ航空利用)ハイデラバード出発 ⇒ アーメダバード着 車で移動、昼食 オーガニックコットン企業訪問 ホテル到着、宿泊チェックイン、夕食、宿泊	車 飛行機 車 ↓ ↓ ↓	ホテル 外 外	アーメダバード
6 日目 10/23	午前 ホテルチェックアウト 紡績・縫製工場 訪問 午後 昼食、振り返りMTG、市内視察 空港へ移動 22:50 (SQ531)アーメダバード空港出発 ⇒7:10(翌日)シンガポール着	車 ↓ 飛行機	ホテル 外 機内	機内泊
7 日目 10/24	07:10 シンガポール着 09:25 (SQ012)シンガポール発 ⇒ 17:30 成田空港到着、解散	飛行機	機内 — —	

※ 上記日程、活動内容、交通機関、宿泊先、時刻などは現地事情等により変更される事があります。

※ [外]は移動などのためにレストラン等での外食となります。

※ ツアー中は、ACE スタッフ 2 名が同行する予定です。(ACE と協働でオーガニックコットンの現地プロジェクトを行っている日本企業にご協力をいただき、ツアーの同行もしていただく予定です。)

※ 「ピース・インド プロジェクト」:ACE が現地パートナー団体 SPEED と協働で実施

※ Peace-India Cotton Project :日本の企業が実施するサステイナブルなコットン栽培支援の取り組みです。

インド・コットンスタディツアー 概要書

●日程 - 2016年10月18日(火)日本発～10月24日(月)日本着 (5泊7日間)

●参加費 - 320,000円 (成田空港発着)

※成田空港以外からの発着も可能です。ご希望の方はお問い合わせください。

●最少催行人員- 10名(予定募集定員:14名) ACEより企画担当者同行

●利用予定航空会社 - シンガポール航空、シルクエア、インディゴ航空

●利用予定ホテル、宿泊先 -ホテル・ハイデラバード・グランド(ハイデラバード)、モーリア・イン(カルヌール)、プライドホテル(アーメダバード) ※上記ホテルは変更の場合がございます。

●お申込み期限 - 2016年9月5日(月) (定員になり次第締め切り)

この日までに確定が難しい方は、ご相談ください。

●参加申込方法 - 申込用紙に必要事項を記入し、Eメールまたはファックスで申込先までお送り下さい。申込用紙確認後、こちらから手続き書類をお送り致します。

●ツアー呼びかけ団体 - 特定非営利活動法人 ACE(エース)

●旅行企画実施 - エアワールド株式会社
大阪市中央区内本町 2-2-14-207号
観光庁長官登録旅行業 961号 / 日本旅行業協会(JATA)会員

●申込・問合せ先(申し込み方法は次ページ) - ご質問、ご不明な点等ありましたら、お気軽にお尋ねください。
株式会社マイチケット エアワールド株式会社代理店(日本旅行業協会(JATA)協力会員 / 兵庫県知事登録旅行代理店業第142号総合旅行業取扱管理者:山田和生)※詳しい旅行条件を説明した書面をお渡しいたしますので、事前にご確認の上お申し込みください。メール送り先: info@myticket.jp

●旅行代金に含まれるもの - 旅行日程に明示された以下のものを含まれます。

・利用運送機関の運賃・料金 航空券費(燃油料込)・航空保険料・成田空港使用料・現地空港税・手配手数料・専用車利用料、2. 宿泊料金(ホテル2名1室利用)、食事代(朝食5回、昼食5回、夕食4回)、3. 現地ガイド(英語・テルグ語)の料金、4. 通訳(日本語・英語・テルグ語)代金、5. 企画旅行費用、6. 団体訪問費用、7. スタッフ2名同行費等、8. 旅行計画・同行にかかるACEコーディネーター料

●旅行代金に含まれないもの - 渡航手続き関係諸費用(ビザ代など) / 超過手荷物料金(規定の量、数を超える分について) / 一人部屋追加料金(24,000円) / 旅行傷害保険料 / ご自宅と集合地・解散地間の交通費・宿泊費等 / 旅行日程に明示されていない飲食代およびそれに伴う税・サービス料、チップ、電話料等

●添乗員 - 添乗員は同行しません。

●現地係員(ACEより担当者が日本から同行します。)

●ツアー重要事項: 以下、ご了承下さいますよう、お願い申し上げます。

- ・ ツアーは「学び」を目的とした企画であり、現地の人、文化との交流を重視しています。
- ・ 農村、施設など、水道、電気、トイレ、お風呂などの環境が整っていないところがあります。ご了承下さい。
- ・ 申込み後、請求書と一緒に、“健康についてのお伺い書”をお送り致しますので、そちらにご記入頂きます。
- ・ ツアーは、国際情勢、その他現地の情勢によりやむを得ず、変更、キャンセルになる場合があります。

●ACE よりお願い

- ・ 緊急時の現地での対応を円滑に進めるために、できるだけ海外旅行傷害保険は、マイチケット取扱のAIU保険にご加入頂きますようお願い致します。ご自身で加入される場合は、保険証書の写しの ACE への提出にご協力をお願いいたします。
- ・ ツアー出発前に事前学習会を予定しておりますので、現地での学びを深めるためにもご参加ください。参加者の方には日程が決定しましたら改めてお知らせさせていただきます。

◆お申込先、ツアー内容に関する問い合わせはこちらへ：（申込用紙にご記入の上、送付ください。）

エアワールド(株)代理業: **株式会社マイチケット** 担当:岩井 E-Mail: info@myticket.jp

兵庫県知事登録旅行代理店業第 142 号(旅行取扱管理者 山田和生) 〒660-0084 尼崎市武庫川町4丁目 27-1
TEL: 06-4869-3444 FAX: 06-4869-5777

◆旅行企画・実施:

エアワールド株式会社

国土交通大臣登録旅行業第 961 号 日本旅行業協会(JATA)会員 〒540-0026 大阪府中央区内本町 2-2-14-207 号

◆現地プロジェクトの内容等に関する問い合わせはこちらへ:

NPO 法人 ACE(エース)

〒110-0015 東京都台東区東上野 1-6-4 あつきビル 3F

TEL: 03-3835-7555 E-mail: studytour@acejapan.org 担当: 田柳、成田

インドのコットン生産地における児童労働撤廃に向けた「ピース・インド プロジェクト」

1.インドのコットン生産地における児童労働：プロジェクト実施の背景

インドは、世界最大のコットン耕地面積を持ち、コットン生産量世界第1位を誇る国です。しかし、そのコットン畑では多くの子どもたちがコットンの栽培・収穫などで劣悪な労働条件で働かされています。

当団体は2007～09年、インド南部のコットン生産地における児童労働について現地調査を行いました。その結果、特に多くの女子が義務教育も受けられず、コットン畑で長時間、低賃金で働いており、使われる農薬の影響によって健康被害に悩まされていることなどが分かりました。

子どもたちが労働に従事する要因として、主に家庭の貧困、親の教育に関する意識の不足、学校の施設や教員の不足といった教育環境の未整備、学齢期に結婚させてしまう児童婚や結婚持参金制度といった女の子の就学を阻害する社会的慣習、子どもを安い労働力とみなす雇用主などがあげられます。



2.現地プロジェクトの実施概要

プロジェクトは2010年～2014年までインド南部のナガルドーディ村で、2014年4月から現在まで同じ地域のマッデラバンダ村とタティクンタ村の2つの村で活動しています。ご支援により、子どもの教育に関する住民の意識が徐々に高まっており、これまでに541人の子どもが労働をやめ、教育を受けられるようになりました。今後は、子どもが継続的に質の良い教育を受けられるよう、学校環境の改善にも取り組みます。また女の子の自立支援、貧困家庭の親の収入向上のための活動も行い、村の自立を図ります。

I. プロジェクト名：ピース・インド・プロジェクト

正式名称：Promoting community Engagement for Assisting Change from child labour to Education in cottonseed production area in India (PEACE-India Project)

(児童労働を教育へ変える、インドのコットン生産地のコミュニティ参加促進プロジェクト)

II. 目的：インドのコットン生産地域で、危険な労働から子どもたちを守り、子どもの就学を徹底させる

III. 支援対象地と実施期間

インド テランガナ州(旧アンドラ・プラデシュ州) マハブブナガル県の村
村単位でそれぞれ4年間

●ナガルドーディ村：2010年1月18日～2014年3月31日

●マッデラバンダ村およびタティクンタ村：2014年4月～2018年3月末

IV. 期待する効果

- ①危険な労働をしている子どもが、労働から抜け出し、基礎教育を受けるようになる
- ②すべての就学年齢(6~14歳)の子どもが、公立学校に継続して通えるようになる
- ③公立学校のインフラなど村の教育環境が改善される
- ④子ども参加のしくみができ、女の子が自ら抱える問題を克服できるよう力を身につける
- ⑤住民がより良い家計管理を行い、子どもの教育に投資し、児童労働に頼らないようになる
- ⑥村や地域のステークホルダーの能力が強化され、子どもの権利を守る責任を果たすようになる

3.実施方法

支援対象地で児童労働撤廃に取り組んでいるインドの NGO「SPEED」と協働で実施しています。現地モニタリングを年3回行い、進捗状況の確認や活動の調整などを行います。

2010年1月から支援を開始したナガルドーディ村ではこれまでの活動により、村全体の教育への意識が高まり、206人の子どもが労働をやめて教育を受けられるようになりました。

現在支援を行っているマッデラバンダ村、タティクンタ村の2村では2014年からプロジェクトが始まりました。

人口、住民について	<ul style="list-style-type: none"> ・人口約 7,600 人(マッデラバンダ村約 5,000 人/1,060 世帯、タティクンタ村約 2,600 人/582 世帯)。住民のほとんどが農家で、土地なし農民や低カースト層など立場の弱い貧困家庭が多くいます。
子どもの数、児童労働の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎教育の就学年齢(6~14歳)の子どもは約 1,360 人(マッデラバンダ村 817 人、タティクンタ村 543 人)。 ・調査では、そのうちの約 362 人(マッデラバンダ村 215 人、タティクンタ村 147 人)の子どもが、義務教育も受けられずコットン栽培などの労働についていることが判明しました。農業に健康被害に悩まされる子どもも多くいます。 ・特に女の子への教育の関心が低く、また 10 代で結婚させられる習慣などの影響により、就学できず家事労働をする女の子も多くいます。
教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・村には公立学校がありますが、プロジェクト開始前は、資格を持った教員の数や、教室やトイレなどの施設が不足しているなど、子どもが学習できる教育環境が整っていませんでした。 ・小さな集落は小学校が 1 つしかなく、交通アクセスが悪いため、村の中心部にある中学校へ通うことができません。



4.これまでの活動と主な成果

①子どもの教育に関する住民の意識が高まってきました

2つの村では、子どもや親、住民、村のリーダー、学校教員、行政担当者を対象にした集会や定期会合、劇や歌などによる文化プログラムの開催、リーフレットの配布、ポスターの掲示などを行って、児童労働の問題、子どもの権利や教育について意識を高める啓発活動を重点的に行いました。

これらの活動により、住民たちが、児童労働の問題や子どもの教育や学校環境などについて、集会所や学校で話し合うようになりました。また公立学校の新学期前には、学校教員・住民・生徒と一緒に、子どもの就学を呼びかけるマーチなどを行いました。

②住民や子どものグループができ、子どもを労働から守る活動が行われるようになりました

各村では、住民ボランティアによるグループ「子ども権利保護フォーラム」や子どもによるグループ「子どもクラブ」を設置し、子どもの権利に関する訓練などを実施して、自ら児童労働をなくしていく活動を行うようになりました。住民グループは、児童労働がないか畑の見回りや学校の子どもの就学状況を確認し、スタッフとともに働く子どもが学校へ通えるよう家庭訪問による親との話し合いをするようになりました。子どもグループは、子ども同士で就学を呼びかけ合ったり、遊び・スポーツ・健康などについて活動を行ったり、定期会合を行って子どもの問題を話し合うようになりました。

③232人の子どもが労働をやめ教育を受けられるようになりました

働いていたために学校へ通えなかった子どものための「ブリッジスクール」を運営し、基礎学力をつけて公立学校へ編入できるよう支援しています。経済的に貧しい家庭の子どもも通えるよう、給食や制服、教科書や学用品などを無償で支給しています。またマッデラバンダ村の2つの集落に住む子どもがブリッジスクールへ通えるようリキシャ(3輪自動車)を活用して通学を支援しています。

これまでに、106人がブリッジスクールに通うようになり、また126人がブリッジスクールを経て、または直接、政府が運営する学校に就学し、合計で232人の子どもがコットン栽培などでの労働をやめ、教育を受けられるようになりました。今後は、子どもが公立学校へ継続的に通い、きちんと学習できるよう学校環境の改善にも取り組んでいます。



児童労働や子どもの教育について話し合う
現地スタッフと住民



児童労働をなくすために結成された住民グループ「子ども権利フォーラム」のメンバー



働いている子どもに子どもが「一緒に学校へ行こうよ」と説得する様子(タティクンタ村)



ブリッジスクールで勉強できるようになった子どもたち(マッデラバンダ村)



④職業訓練センターが設置され、40人の女の子が通うようになりました。

2015年8月に2つの村で職業訓練センターの運営が始まりました。コットン畑などで働いていたために教育を受けることができなかった14～17歳の学齢期を過ぎた女の子を対象に、基礎教育と縫製や刺繍などの職業技術を身につけて仕立て屋となるための訓練を行っています。

女の子が十分に教育を受けられない背景には、結婚する際に女性の家族が男性の家族に多額の結婚持参金を用意するインドの風習があります。そのため親はお金を稼ぐためにも女の子を働かせたり、すぐにお嫁にってしまう女の子は学校に行く必要はないと考えることがあります。学校で勉強することができない環境にいる女の子たちが仕立て屋として自分で収入を得る手段を持つことは、嫁ぎ先で軽視されがちな女性の立場や発言権などを守ることや、教育の大切さを実感した女の子が母親になったときに、自分の子どもに教育を受けさせようと考えられることにもつながります。

2つの村で40人の女の子が一期生として通い、訓練を受けるようになりました。終了後は、各自の家や、嫁ぎ先の他の村で仕立て屋として生計を立てるようになります。

<ケーススタディ>

タティクンタ村に住むサロージャさん(15歳)は、職業訓練センターに通うようになるまで学校に行ったことがなく、コットン畑で働いていました。賃金は1日当たり約300円で、長時間の炎天下での作業で頻りに体調を崩していたそうです。

「働いていた時は仕事がきつくて頭も痛く、身なりを気にする余裕がなかったので、今考えると自分は汚かった。自由時間もなく、友達もいなかった。今はここにいるみんなが友達。作業中におしゃべりをするのがとても楽しい。」と話してくれました。

サロージャさんは4人兄弟で、2人の弟は学校へ通っていますが、1つ年下の妹はまだ畑で働いています。職業訓練センターへ来ることを父親は賛同してくれましたが、母親はまだ完全に許していません。それでもサロージャさんは「自分の変化を見せて、早く妹もここに来られるようにしたい」と言います。引き続き、両親の理解を得られるようサポートを続けます。



職業訓練センターでミシンの縫製の練習をする様子(タティクンタ村)



センターに通うようになった女の子たちと講師(右)(マッデラバンダ村)



コットン畑で働いていた頃のサロージャさん(中央右)と両親、妹



職業センターで友達に囲まれ笑顔を見せるサロージャさん(中央)

5. 課題と今後の活動予定

村にははまだ多くの課題が残っているため、それらを改善できるよう今後は以下の活動を行う予定です。

①【啓発活動と子どもの就学支援】:コットン畑などで働くために教育を受けられない子どもがまだ多くいるため、住民グループと連携して、啓発・訓練活動、働く子どもの見回りや家庭への相談支援など、子どもの就学支援を引き続き行っていきます。



コットン畑で働く女の子(タティクンタ村)

②【教育環境の改善】:村の公立学校では、資格のある教員が十分いない、教室やトイレの修繕がされておらず使えない、飲料水施設がないなどの問題があります。また教員や住民が参加する「学校運営委員会」は、これまで会合や活動が十分行われていませんでした。委員会の活動を強化して、学校改善のための行政への要請が行われるようにし、子どもが学校に就学した後も継続的に学習できる環境をつくります。



マッデラバンダ村の小さな集落にある公立学校は小学 1-5 年生に対して、

③【女の子の自立支援】:女性差別や、18 歳未満で結婚させてしまう児童婚の習慣があるために、多くの女の子が教育を受けられず働いています。そのため義務教育年齢を過ぎた女の子のための職業訓練センターを村に設置・運営し、女の子たちが基礎教育や職業技術を身につけるための自立支援を行います。また女の子のグループを作って女性差別をなくす活動も開始します。

④【親の収入向上】:働く子どもの家庭では、収入が不安定、行政サービスを受けていないなどのケースが多いため、親の収入向上支援や、行政制度とその活用方法について啓発・訓練を行い、親が家計や生活環境を安定させて子どもの教育を支えられるよう自立を図ります。

<村での活動の様子>



ブリッジスクールで勉強する子どもたち(タティクンタ村)



ブリッジスクールでの給食の時間(タティクンタ村)



職業訓練センターで刺繍の練習をする女の子たち
(タティクンタ村)



公立学校の校長先生と就学状況や学校環境について
ACE スタッフが話し合う様子(マッデラバンダ村)



コットン畑で働く少年の様子(マッデラバンダ村)



ブリッジスクールに通う子どもが、働く子ども(左)と一緒に通うよう説得する様子(マッデラバンダ村集落)



子どもを労働者として雇わなくなったと話すコットン農家
(マッデラバンダ村集落)



プロジェクトで結成された住民グループ(マッデラバンダ村の集落)